



“聞”

音や声が自然に耳へ入ってくる感覚。

“聴”

意識を向け、耳を澄ませる行為。

絶えず情報が流れ、何が本当なのかも揺らぎ続ける時代。  
小さな声や、かすかな気配に耳を澄ませたいと思った。

《聴》は、床に置かれていた紙を立て、重力に委ねながら制作している。  
墨が落ちる。紙が吸収する。乾きとともに、紙が縮んでいく。

音だけではなく、感触や気配を“きく”。  
素材が起こしている変化そのものを、静かに聴き取っていただければと思う。

## 観照における位置

上田普《観照 | 聴 Listen》では、  
墨が宣紙の上をゆっくりと沈んでいく。

削り墨による濃淡や滞留、滲みは、  
像を定着させず、  
見ることを静かに揺らしていく。

墨沿着宣紙缓慢下沉。

黒が落ちていく時間の中で、  
空間には沈黙が生まれる。

黒色持续向下聚集，  
空间因此安静下来。

観客の前にあるのは、  
いまでも静かに流れ続けている感覚の時間である。

观众所面对的，  
是一段正在发生的下沉时间

《観照》は、  
般若心経を現代における知覚・空間・身体・時間の問題として捉え直している。

上田普は、  
その感覚を静かに横断していく作家の一人である。



Artist | 上田普うえだあまね

1974年、兵庫県淡路島生まれ。京都在住。

幼少より書を学び、四国大学書道文化学科卒業後、中国・杭州に留学。古典書法を基礎に据えながら、身体性と時間性を伴う表現へと展開する。

カナダ、ニューヨークで活動後、2002年より京都を拠点に制作。

墨、重力、行為によって生成される独自の表現を軸に、建築空間、祭礼空間、舞台芸術など、空間との関係の中で作品を展開。

近年は、書を固定された文字表現としてではなく、身体と空間のあいだに立ち現れる現象として捉え、パフォーマンス、映像、VRへと領域を広げている。

主な活動に、Sotheby's New York「Sense Series」(2001)、韓国国際アートフェア(2007)、Spirit Japan(フランス・グルノーブル、2018-2021)、東京アートフェア、Nuit Blanche Kyoto、Design Week Paris など。

近作では、AMAN 京都をはじめ、国内外のホテルや建築空間にて空間作品を制作。

四国大学書道文化学科 特任教授。

## 観照 KANSHŌ — Heart Sutra as Living Axis

### 般若心経と現代芸術

2026年5月26日 — 5月31日 kokoka 京都市国際交流会館

Reino-e Gallery Kyoto

[www.reino-e.jp](http://www.reino-e.jp)

[info@reino-e.jp](mailto:info@reino-e.jp)